



創業者
飯田 亮

当期の業績

当期の日本経済は、情報通信分野を中心に民間設備投資が増加したことにより景気に曙光が見えたものの、個人消費は引き続き低迷し、加えて株価も低迷するなど、依然として景気浮揚の兆しが見えないまま推移しました。

こうした状況の中で、セコムグループは当期も企業目標として掲げている「社会システム産業」の構築に向けて、サービスの充実、営業活動の強化を図るとともに、社会のニーズに応えた新しいサービスシステムの開発・普及に努めるなど、積極的に事業を推進しました。その結果、以下の成果を上げることができました。

当期の連結売上高およびその他の収入合計は前期比13.4%増の4,677億円となりました。また連結当期純利益は、法人税等の増加、および会計原則変更による累積影響額の計上により、前期比7.0%減の441億円となりました。売上高およびその他の収入の内訳は、契約関係収入が2,817億円、商品、ソフトウェア、メディカルサービス、地理情報サービスおよび不動産売上高が1,298億円、保険サービス収入が217億円、投資有価証券売却益（純額）が26億円、退職給付目的信託への株式抛し益が214億円、受取利息およびその他収入が104億円となっています。

なお、1株当り当期純利益は前期の203.67円から189.28円となりました。また、2001年6月28日の株主総会では1株当り配当金を40円にすることが決議されました。

新事業への挑戦

セコムグループの事業は、セキュリティ、情報系、メディカル、教育、損害保険、地理情報サービスと多岐にわたっています。これらの事業は、一見何の関連性もないように見えますが、これらの事業から生み出される各サービスシステムを複合化・融合化することにより、個別に提供していたのでは得られない新しい価値の創造をめざすのが「社会システム産業」です。当期も、セキュリティと地理情報サービスの融合、またセキュリティと損害保険の融合によって、これまでにない全く新しいサービスが生まれました。

「社会システム産業」の構築に向けて現在行っている主な施策と新商品をご紹介します。

セキュリティ事業では、GPS（全地球測位システム）衛星と携帯電話基地局情報の両方を使うことによって、移動する人物・車両の位置を検索し、要請があれば当社の緊急対応員が現場に急行する新しいセキュリティサービスを開発、「ココセコム」の商品名で発売しました。これは、従来のセキュリティの概念を広げる革新的なサービスシステムです。このサービスには、GIS（地理情報システム）分野で最大手のグループ企業、(株)

SECOM's Social System Industry

パスコのノウハウが十分に活かされています。このほか、非接触型ICカードをカードリーダーに通すことなく、かざすだけで電気錠が解錠できる「セサモNTⅢ」、標準ICカードでのみ操作可能であった出入管理システムを、一般に広く用いられているJISⅡ型磁気カードで操作できるようにした「セサモMC」を発売しました。また、オリジナル金庫の耐火性を格段に向上させ価格を低減した新「ピタゴラスシリーズ」、無人独立店舗向けCD/ATMブース「ハンクスΣ」の簡易型で価格・輸送費を大幅に低減した「ハンクスΣ-J」を発売しました。

情報系事業では、セコムトラストネット(株)が、電子認証の高い技術力とこれまでに蓄積したノウハウをもとに、高度な安全性を備えた「セコム・セキュアデータセンター」サービスを開始しました。同データセンターでは、厳格な入退出管理に加え、ネット上での不正侵入やウイルス感染に対する監視など、厳重な運用監視体制を整え、お客様にネットビジネスをより安全に、よりスピーディーに、かつ低コストで行っていただくためのサポートをします。また、セコムと富士通(株)、丸紅(株)、東京電力(株)の4社が母体となって設立したCATV事業会社「ジャパンケーブルネット(株)」では、4社の経営資源を結集して、CATV網を利用したブロードバンド(広帯域)サービスの提供を始めました。

メディカル事業では、セコム在宅医療システム(株)が、医療保険・介護保険が適用される「訪問看護ステーション」の拠点拡大を図りました。また医療機器・器材の販売ノウハウを持つ(株)マックがセコムグループ入りしました。そのほか、セコムは東京都町田市にある終身利用型高齢者向け施設「ロイヤルライフ多摩」の経営に参画しました。

教育事業では、当期もセコムラインズ(株)が学校向けコンピュータ教育システムの普及に努めました。

損害保険事業では、セコム損害保険(株)が、「セコム・ホームセキュリティ」ご契約のお客様にとって保険料が割安になる、家庭総合保険「セコム安心マイホーム保険」を発売しました。これは、セコムのホームセキュリティシステム契約により、お客様の損害発生リスクが低くなることから提供できる当グループならではの商品です。この「セコム安心マイホーム保険」の登場により、事前の備えから事後の補償まで一貫して安全・安心をお届けできるようになりました。

地理情報サービス事業では、パスコが民間企業の経営活動をあらゆる局面で支援する「経営ナビゲーションサービス」をスタートさせました。

このほか、マンションデベロッパーのセコムホームライフ(株)が、安全・安心を重視した付加価値の高いマンションの開発・販売に取り組みました。



代表取締役社長
杉町壽孝

vision is expanding the scope of its security services

「社会システム産業」への前進

現在、私たちは、先にご紹介した、人物・車両向けのセキュリティサービス「ココセコム」の早期普及に全力を傾注しています。

人々の「安全」に対する社会的関心は、ますます多様化・高度化しており、このような社会ニーズを先取りし、的確にビジネス機会をとらえ、企業として常に新しい事業に挑戦して、私たちの事業変革を継続していきたいと願っています。当グループでは、多くのお客様から「困ったときにはセコムに頼めばいい」「セコムのシステムがあると安心で便利だ」という声をこれまで以上にいただけるような、サービスの提供をめざしています。

「社会システム産業」とは、企業や家庭などのお客様に便利で、快適で、安心できるサービスを提供するために、情報通信ネットワークを駆使し、新しいシステムづくりをめざすものです。セキュリティを中心に情報系、メディカル、教育、保険などのサービスを統合化、融合化してひとつの社会システムとして提供していきます。

このようにセコムグループは、「社会システム産業」の構築という目標へ邁進しながら、社会における役割をより明確にすると同時に、スピード経営を実践し、株主価値を高めるべく挑戦を続けます。

私たちは、日々変貌する社会の中で、セコムグループの新しい未来の創造へ向けて邁進してまいりますので、株主の皆様のご理解とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

2001年8月31日

銀田 亮 杉町 壽茂
創業者 代表取締役社長